

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第246号

発行者
茨城県学校長会
会長 鬼澤 真寿
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集

新年度に備えて 危機管理体制の整備と学校安全の確保



目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- 特集1
「新年度に備えて
我が校の課題」……………2
- 課題「毎日が危機管理」……………5
- 特集2
「危機管理体制の整備と
学校安全の確保」……………6
- 提言一題……………8
- 特別寄稿
「今さらであるが」から
「今だからこそ」……………9
- 研修報告「全連小・全日中」……………9
- ブロック研修会から……………10
- ひばり……………12
- 図書紹介……………13
- 梅のかおり……………14
- 市町村教育委員会と学校長会……………16

地域とともに

稲敷・江戸崎小

森永 和幸

写真にあるように、本校には地域の方々に支えられている教育活動がたくさんある。

更に、今年度は月に一回のクラブ活動でもお世話になっている。手品、お囃子、書道、手芸、ダンスは地域の方が講師である。

「校長先生、この手品見て！」

クラブ活動のある日にはうれしそうに声をかけてくれる児童が増えてきた。自分の子供、孫のように温かく接してくれる講師の皆さんのおかげである。

学校だけでは育めない心がある。今後力も借りていきたい。

特集 1

新年度に備えて
—我が校の課題—

子供たちの笑顔と学園の
絆づくりを目指して

那珂・横堀小 雨澤 尚樹

本校は、那珂市の北東部に位置し、本米崎小学校と統合して五年になる全校児童二二三名の学校である。「すごいぞ！横堀っ子」を合い言葉に、児童一人一人の笑顔を大切にしたい教育活動を推進している。

来年度は、今年度の成果と課題を基に、次の二つのことを重点に取り組んでいきたい。

一 小中一貫教育の充実

那珂市では、五つの学園に別れ小中一貫教育を行っている。本校は、額田小学校・第二中学校と二小一中による青遙学園として連携校型の小中一貫教育を実践している。今までに、合同あいさつ運動、地域との合同運動会・体育祭への相互参加、小中一貫の日での活動など、様々な交流活動を行ってきた。その中で、小小、小中、地域が互いにふれあうことにより、絆が深まり、思いやりや憧れ・尊敬といった心に関する成果を上げてきた。今後は、弾力的・効果的な教育課程の編成、指導方法、学習や生活の約束事の共有など人の移動を伴わない連携の在り方を追究していきたい。

二 読解力の育成

本校では学園としての指定を受け、昨年度まで国語科の書くことに関する研修や授業研究を積み、ある程度の成果を上げることができた。しかし、新たに長文読解の力や主語・述語を意識して読み取る力が不足しているという課題が明確になった。そこで、学園としての研究課題を読解力の育成とし、本校では国語科を中心とした研究を継続していく。文章の構成や展開について



て記述を基に捉える学習や文章を読んで理解したことを基に自分の考えを深める学習などの充実、更には国語の授業におけるICT活用など、全職員で授業改善、指導力の向上を目指し、成果を学園で共有していく。

「たくましくまごころあふれる
りりしい児童の育成」を目指して

小美玉・玉里東小 皆川 修

本校は、全校児童三七名の小規模校であり、令和三年度に玉里地区の四校が統合され、玉里学園義務教育学校となる。統合に向けて校章やスクールバスの路線の決定、組織体制の整備等、準備を進めている。地区内一中小三小が学校教育目標を統一して、「たまり」から「たくましくまごころあふれる りりしい児童生徒の育成」とした。

本校としての課題もまさにそこにある。小規模校から進学・進級する児童にとつて、大きな集団の中でも、学びの意欲を高め、自分の意志を伝えることができるたくましさの育成が重要であると考えている。

一 思考力・表現力の育成

今年度、算数科を中心に「思考力・表現力を高める授業改善の工夫」を研修課題に掲げ、要請訪問等を活用しながら、校内研修に取り組んできた。課題に迫るために

授業づくりの手立てを五つ設けた。「かいたり操作したりして、表現しながら考える力を高める場の工夫」と「自己の変容を自覚させるための振り返りの視点の工夫」を重点とし、指導案の共同立案・模擬授業・授業振り返りシートの活用などを通して、手立ての有効性を検証しながら、授業の質の向上を図っていく。

二 心豊かな児童の育成

学区が自然が豊かであることや地域の協力が厚いことを背景に、アサザプロジェクトや稲作、東のまつりなど、地域ぐるみで子供たちにとつて豊かな体験を継続させていく。十一月現在全員出席日が九〇日を超えているが、さらに人権意識を高め、楽しい学校づくりを進めていく。

地域の宝として育てられている子供たちが、これからの人生を生き抜く力を身に付けられるよう、教職員一丸となつて教育活動を展開していく。



伝統を受け継ぎ新たな伝統を築く 新生久慈小学校

日立・久慈小 宇佐美 毅

本校は、日立市南部に位置し、樹齢百年以上といわれる三本の大きなケヤキをシンボルとした創立一四六周年の伝統ある学校である。校舎は築六〇年の古い建物であったが、それを平成二八年度より解体、新築工事が始まった。昨年度末に校舎が完成、来年度には新体育館とグラウンドが整備され、新生久慈小学校がスタートする。

地域の方々もそれを喜び、新校舎内覧会には多数の参加者が訪れた。子供たちは明るく素直である。グラウンドが思うように使えない中でも、みんなと仲良く元気に走り回っている。

そのような子供たちに、我々教職員チームは「つよくやさしくのぞみあれ」という校訓のもと、新校舎での学びにふさわしい「未来を切り拓くたくましい久慈っ子」の育成を目標とし、三つのプランを策定して取り組んでいく。

一 あったかハート夢プラン

集団への所属感や存在感を感じさせる学校・学級づくりに努めていく。児童会を中心として創立記念集会や新たな取り組み

を実践する。また、地域人材の協力を得て、自分の今や将来の生き方を考えられる道徳教育とキャリア教育を推進していく。

二 学力アップ夢プラン

主体的・対話的で深い学びの実現により確かな学力の向上を目指す。学校課題研究を中心に、授業改善や指導力の向上に努める。知識・技能の習得と活用、表現力の育成を図っていく。

児童主体の授業、ゴールから考える授業づくりがカギとなる。

三 元氣いっぱい夢プラン

自分の命を守り、健康の増進と体力の向上に自ら取り組む児童を育成する。保健・安全教育の充実と、児童が主体的に活動・活躍できる体育的行事や体育の授業を実践していく。



「自分の思いや考えを表現できる 児童の育成」を目指して

行方・北浦小 武田 民弥

本校は、行方市の北東に位置する創立四年目、児童数三二二名の中規模校である。学校経営のテーマは「ひととはだぬごう北浦小く認め・見守り・導く」である。本校児童は、素直で優しいが、人前で自信をもって自分の思いや考えを発表することを苦手とする面が見られる。そこで、友達や学級・学校さらには地域のために役立つことに進んで取り組んでいくことで、自己有用感・自己存在感がもてるようになってもらいたいと考え取り組んできた。成果として、運動会、音楽会、学習発表会等で自信をもって活動する児童の姿が見られるようになってきた。

次年度は、授業を中心とした「自分の思いや考えを表現できる児童の育成」の更なる推進を柱として次の二つの方策を中心に取り組んでいく。

一 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり

授業の導入はワクワク、展開はワイワイ、まとめはウンウン。児童がそんな気持ちになって授業に取り組めるようになることが最大の目標である。そのため

には、教職員の授業力向上が不可欠である。プロジェクトチームの組織体制を見直し、授業づくりにボトムアップ的に取り組めるようにしていきたい。

二 児童の学びを生かす場の設定

児童が自信をもって発表した、活動したりするためには、授業等で学んだことを生かした表現する場が必要になる。総合的な学習の時間に学んだ表現力、ICT活用能力等を横断的に

一人一人が輝く楽しい学校

稲敷郡・阿見第一小 松本 浩一

本校は、阿見町の北部に位置し、全校児童三八〇名の中規模校である。

本年度は、「一人一人の学力を向上させる」楽しく学べる学級づくりを通して「を組織目標とし、「伝え合うこと」に力を入れた授業づくりを実践してきた。

一 学力向上に向けた授業改善

学校は子供の成長のためにある。そのためには、日々研鑽に努め、教師力（児童理解力・授

活用し、各教科のねらいに応じて構成して自信をもって表現できるようにしていきたい。

まだまだ課題は山積みであるが、児童の学びへ向かう笑顔のために本校スタッフ全員でひとはだぬいしていく覚悟である。



業力・人間力)を高めていかなければならない。特に教師の授業力向上は児童の学力保障を図る上で重要な要素の一つである。本年度は「伝え合うことを意識した対話的活動」を取り入れた授業の在り方について研修を行ってきた。「話す」「聴く」スキルの習得に向けた理論研修や道徳を中心とした授業研究を实践してきた結果、少しずつではあるが、児童の「表現力」が高まってきた。次年度は、他者



との「関わり」になお一層力を入れられるとともに、児童の発言を繋ぎコーディネートする力を磨き、児童一人一人の学力の向上に結び付けていきたい。

二 地域とともにある学校

本校では、オリンピックのメダリストによる講演会やキャンプアテンダントによる「おもてなし」の授業など、様々な分野での専門家を招き、「本物に触れる」体験の場を設定している。このことは、心豊かな児童の育成に大きな教育効果をもたらしていると考えられる。また、英語や環境整備ボランティア、防犯パトロール、さらには二〇年来続けている「おやじクラブ」による活動が、子供の安心できる居場所づくりに大きな成果を上げていると考える。次年度も地域との連携・協力をさらに深め、地域とともにある学校づくりに努めていきたい。

学力向上と豊かな人間関係の育成を目指して

北相馬・文間小 戸張 深雪

本校は、利根町の北東部に位置し、全児童数二一七名の学校である。

本年度は「笑顔あふれる学校」をスローガンに「豊かに表現できる児童の育成」「互いに認め合える児童の育成」を目指し日々の実践に当たってきた。本年度の成果と課題を振り返り、次年度は、次のことに取り組んでいく。

一 表現力の育成

本校では、昨年度より国語科を中心に「根拠を基に自分の考えを表現できる児童の育成」に取り組んできた。

今年度は、学力向上サポート訪問を活用し、「自分の考えを仲間と交流できる児童の育成」に取り組んでいる。付箋やハンドサイン、その他意見を交流するための手立てを工夫し、少しずつではあるが他者の考えと自分の考えの違いを意識し意見交流をすることができるようになってきた。

このようにテーマに迫るためには、教職員の授業力向上は欠かせない。外部講師を招聘した職員研修を計画的に進め、引き

続き授業改善に努めていく。

二 豊かな人間関係の育成

本校は、多くの学年が単学級のため人間関係に偏りが見られる。そのため、子供たちの豊かな人間関係づくりの一環として、年間を通して、縦割り班による清掃活動を行ったり、縄跳びの時期には縦割り班で「大縄跳び」に取り組んだりしている。その成果が表れているのか、休み時間も学年関係なく鬼ごっこやサッカーをしている姿

新学習指導要領の実施に向けて

結城郡・西豊田小 荒巻 英栄

本校は鬼怒川の西の自然豊かな田園地帯にあり、児童数二二八名の学校である。「笑顔あふれるワクワク西小」をキャッチフレーズに掲げ、子供たちにとって「行きたい学校」、保護者・地域の皆様には「あずけたい学校」、そして働く教職員にとって「勤めたい学校」を目指し、学校経営に取り組んでいる。

一 プログラミング教育導入

が見られるようになった。今後は、計画的に縦割り班遊びや異学年による交流学习等に取り組み、自他のよさが認め合えるような活動を展開していく。



意見を交流し合う児童

来年度から導入されるプログラミング教育にどのように取り組むかを検討している。その際、文部科学省から出された「小学校プログラミング教育の手引き」を参考に職員で意見交換をした。「各教科の学びを深める意味で有効である。」「子供たちに授業の楽しさを伝える上で積極的に活用したいが操作に慣れていないので不安がある。」などの意見が出た。そこで、まず教師自身がプログラミング

教育の有効性を実感するため研修・実践する機会を設けた。本校では、夏休み以降、ICTサポーターと共にプログラミング教育を実践し、その可能性を探り、次年度につなげる計画である。

二 英語の指導体制の充実

本校ではすでに、外国語活動を中学年で年間三五単位時間、高学年では七〇単位時間の英語科を実施している。現在はALTが週三日間来校し、担任と連携して「聞くこと」「話すこと」を中心に自分や相手のこと、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う活動を行っている。

今後は、高学年における「読むこと」「書くこと」への指導を含め、英語を用いて主体的にコミュニケーションを図る基礎的な力を養えるような言語活動の充実のため、指導体制を整え、新学習指導要領の全面实施に向けた準備をしていきたい。



課題



毎日が危機管理

県学校長会副会長 塚本 秀樹
(日立・助川小)

「皆さんは学校に泊まり、キャンプをすることになりました。」子供たちは大喜びですが、実は、学校の校舎を利用した籠城訓練です。小学一年生から中学三年生までの全校児童生徒が学校に泊まり、非常食を食べる訓練です。学校が大勢の群衆に取り囲まれ、子供たちが校舎から出られなくなった状況を想定しての訓練です。特に低学年の子供たちが親元を離れ、宿泊すること慣れるための行事です。毎月様々な形で行っていた避難訓練の一つです。

これは日本の話ではなく、私 が校長を務めていた在イラン・テヘラン日本人学校での話。この年実際に、イギリス人学校が、大使館の敷地内にあつたのにも関わらず、デモ隊の群衆に包囲され、逃げることでできなくなった事件が起きていました。日本人学校では鉄格子を高くしたり、ガードマンを多く雇ったりしました。また、全児童生徒・全教職員、朝昼晩の

一〇日分の非常食を備蓄し学校内に籠城できる準備を整えました。さらに、国外脱出シミュレーションとして、帰宅後六〇分以内に荷物をまとめ国際空港に出发する訓練、学校バスを使って陸路で脱出する際のルート想定及び運転手の国際免許証の所得なども行いました。

国内の校長職との大きな違いは、児童生徒や教職員の安全を確保するだけにとどまらず、教職員の配偶者や同伴している子供の身の安全を常に考えているなくてはならないという点です。国外脱出といっても、国中が大混乱をしている中では難しく、日本の民間航空会社の就航もなく、自衛隊の派遣も困難で、他の中東諸国の日本人学校のように米軍の艦船に乗せてもらう取り決めもあろうはずありません。その中で、職員やその家族を守るために、大使館や日本人会と綿密に連絡を取り合い、正しい情報をより早く入手することに最大の力を注ぎました。

日本においても、今年台風等の自然災害が多く発生しました。今後、災害に対しての学校長としての役割、対応の在り方が課題となってくるでしょう。学校としては、設備等の日頃からの安全対策はもとより、在校中に発災した場合の避難、帰宅が困難な場合の備蓄対策、避難所の設営、教育活動再開への対応、心理的ケア等、多岐にわたる対応が必要になります。それらは全て、大切な命を守るためのものです。子供だけでなく、その保護者をも含めたすべての命を預かっていることを肝に銘じておかなければなりません。

東日本大震災の時、津波から逃げるために、全校児童を裏山に引き連れて登っている途中、保護者が迎えに来て、引き渡さなかつた校長の話聞いたことがあります。あの時引き渡していたら、親子とも助からなかつたとのこと。我々校長は、その時その時の最善の判断をしていかなければなりません。一瞬一瞬が決断の連続です。頼りになるのは、情報収集力と情報伝達体制ではないでしょうか。

「対話」を大切にしたい 教育活動の実現

下妻・千代川中 中村 竜雄

本校の教育目標を具現化するために合言葉を「すべての努力は笑顔のために！」と掲げ、一人一人を大切にしたい教育活動に取り組んでいる。

次年度も一人一人を大切にしたい教育活動を基盤に据えるが、特に「対話」を重点化して、次の二点について取り組んでいきたい。

一 つなげる人・つながる人を育てる授業づくり

学力向上の土台になるのが授業である。常に育つ生徒像（つなげる人・つながる人）をイメージした授業づくりに取り組んでいきたい。生徒には、将来幸せに生きていくために人と人をつなげることが出来る人間や人と良好につながる人間になつてもらいたいと思つている。それには「対話」ができる能力が不可欠である。そこで、日々の授業の中に「対話」の場面を設定したり、「対話」のありがたみを感じられる働きかけをしたりしていきたいと考える。そのために、全教師全生徒で納得できる授業デザイン構築をしなければいけ

ないと思える。

二 実現させることを味わえる生徒会活動

生徒発案で黙働清掃を行っている。毎日昼休み後十五分間の清掃時間は、話し声がない。来客者へも会釈のみになっている。この静寂は、活気あふれる一日の中で貴重な時間だと感じる。静寂の中で得る大切なものがあるのではと思つている。このように、生徒発案で実現できることをもつと実感させたいと考えている。校則でも、委員会活動でも、生徒集会でも何でもよい、自ら考え、行動し、実現できることがどれほどの喜びになるかを味わってほしい。それらの実現にも必ず必要になつてくるのは「対話」であると思ふ。



特集2

危機管理体制の整備と 学校安全の確保

地域主導型の防災体制づくり

地域で親子で防災訓練 R1

小美玉・羽鳥小 青葉 宏一

一 はじめに

本校は、緊急時における避難所に指定されていて、東日本大震災の折には、地元の被災者だけでなく不通になった常磐線の乗客を受け入れたことで、大変な状況であったことは記憶に新しい。

そして、当時から、地域コミュニティの核である「こころふれあう羽鳥の会」を中心に地域防災連絡協議会を立ち上げたいという気運が高まっていた。

また、本校は、昨年度、県の事業である「親子で地域で防災教室」の指定を受け、地域と連携した防災訓練を実施した。そこで、そのノウハウを生かし、今年度から地域主導型の防災訓練を実施する運びとなった。

二 地域防災連絡協議会の開催
年三回、地域コミュニティ、学校、市民団体等、一〇団体が一堂に会し、企画・研修・意見交換等を行った。協議を通して、現実に必要なであろう災害への備えを具体的に話し合



二 良い機会となった。

三 羽鳥地区防災士会の発足
避難所運営ゲーム(HUG)等の専門的な指導が必要な訓練を取り入れるために、地区防災士会を立ち上げた。(一五名登録)更に防災士の研修及び資格取得情報を提供し、後継者育成にも取り組み始めた。

四 市の行政機関との連携

防災訓練には行政機関との連携は欠かせない。市防災管理課危機管理室には、防災無線による放送、非常食提供および説明等を、消防署には消火訓練、避難袋体験、煙体験を、石岡警察

署にはパトカー試乗体験等を担当していただくことで臨場感のある避難訓練が実施された。

五 防災教育プログラムの編成

地区ごとに毎年新しい体験を重ねていくことで、六年間で六つの技能を身に付けていくプログラムを作成した。

- (一)非常食体験
- (二)新聞スリッパ
- (三)ロープワーク
- (四)救助袋体験
- (五)消火器および煙体験
- (六)避難所運営ゲーム(HUG)

安全な登下校を目指して

北茨城・磯原中 緑川 弘

一 はじめに

本校は、大北川下流域に磯原町の市街地、北側の丘陵部に工業団地が位置している。海岸線沿いにJR常磐線及び六号線が南北に走っている。生徒の登下校時には、通勤による渋滞が発生したりトラックの交通量が増えたりして、大変危険な状況にある。しかも、道路が狭く見通しが悪い通学路がたくさんあるため、過去に自転車と車の接触事故等も発生している。

そこで、交通安全を中心に本校の取組を紹介したい。

二 安全な登下校の取組

(一)磯中学区の新通学路の選定
本校は令和三年四月に華

六 おわりに

令和元年度は、全国各地で想定外の災害が頻発したことにより人々の防災意識は、より一層高まることになった。

羽鳥小学校区の防災活動は、始まったばかりである。今後も地域防災連絡協議会を中心に、地域住民と学校が連携・協力し、体制の整備を図らなければならない。

そして、「二人一人が災害を身近に感じ、一大事への心構えと身を守る技能を学ぶこと」を目指し、防災訓練を継続させていきたい。

川中学校と統合し、新校舎に移転する。そのため新通学路選定を見据えて、通学路の危険箇所を洗い出し新通学路についての検討する場を設けた。協議の場には、本校職員だけでなく、磯中学区の小中学校の教員や保護者、青少年健全育成の方、警察の方等を巻き込んで実施した。地域の様子や状況に詳しい方々に参加していただいたお陰で、学校では知らなかった多くの危険箇所を洗い出すことができた。さらに新通学路についても警察の方から、様々な情報をいただき、安全な通学路について

確認することができ、大変有意義な協議会になった。
(二)交通安全教室
学校評議員の協力により、スタントマンの実演による交通安全教室を校庭で実施した。交通事故の衝撃や恐ろしさを実感させ、交通事故につながる危険行為を未然に防ぎ、交通ルールを遵守することの大切さを理解してもらうために全校生徒を対象として行った。

交通安全違反による事故の再現を見た生徒たちは、悲鳴を上げながら真剣な態度で参加し、交通安全意識を高めることができた。さらに、交通事故の保証問題についても、事例をあげながら一人一人に考えさせ、自転車保険の加入についても指導をした。ヘルメットの着用はもちろん、現在は登下校中は必ず反射タスキを全員が着用することとして、徹底されている。

三 終わりに

今後も生徒たちの大切な命を守るために、交通ルールやマナーの意識を高め、安全な登下校を目指して、保護者や地域の方々と連携・協力しながら取組んでいきたい。



児童の安全を目指して

保護者・地域・関係機関との連携

龍ヶ崎・城ノ内小 斗沢 孝浩

本校は、児童数五二五名、特別支援学級を入れて二一学級の学校である。来年度、開校二〇年を迎える。他校と同様にPTAや関係機関の協力を得て、児童の安全確保に努めている。

一 学校安全への取組

学校安全への取組に関して、関係機関と連携して、次のような取組を行っている。

あいさつ運動（交通安全協会・保護司会・見守りボランティア・城ノ内中学校）、交通安全教室（竜ヶ崎警察署）、小中合同引き渡し訓練（城ノ内中学校）、着衣水泳（流通経済大学）、スマホケータイ安全教室（NTTドコモ）、水泳教室（水泳協会）、性に関する指導（助産師）、歯磨き指導（歯科衛生士専門学校）、薬物乱用防止教室（茨城県警）、交通安全少年団（竜ヶ崎警察署・交通安全協会）、人権集会、アレルギード対応研修、安全点検、通学路点検、生徒指導情報共有（全職員）

二 地区合同防災教室

防災については、地域との

連携による学校の防災力強化推進事業として、『城ノ内地区合同防災教室』を毎年行っており、児童の防災に対する意識を高めている。

市の危機管理課、城ノ内コミュニティ協議会、PTA役員と本校職員で、事前に会議を行って、日程及び内容を決定している。本年度は、九月二十九日（日）に実施した。参加者は、本校児童や保護者、職員、城ノ内小学校区在住の方々、市の危機管理課、龍ヶ崎消防署、消防団、城ノ内中学校生徒である。

当日は全体会の後、ポンプ車放水体験を参加者全員で見学した。その後、各学年に分かれ、それぞれが発達段階に応じて、防災に係わる活動を行った。一年生と二年生は煙体験と防災DVDの視聴、三年生は水消火器体験とDVDの視聴、四年生は水消火器体験とDVDの視聴、防災グッズ見学、非常時持出しリストづくり、五年生は防災グッズ見学と簡易担架及び応急処置体験、六年生は防災グッズ見学とAED体験、保護者や地域

の方は防災グッズ見学やマンホールトイレの設営及び見学、簡易担架及びAED体験を行った。

三 終わりに

保護者、地域の方々、関係機関と連携して、今後も児童の命を守る意識を高め、安全な学校づくりを目指していきたい。

児童の安全確保のために

PTA・地域との連携

古河・古河二小 赤松 章

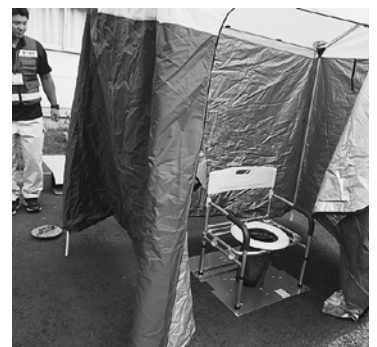
一 はじめに

本校は古河駅に近いため、学区内の道幅が狭く交通量が多い地域にある。学区が比較的狭いことやマンション居住者が多いことから通学班登校をしていない学校である。登下校をはじめとする学校外では、PTAや自治会、子ども会の協力を得ながら安全確保に努めている。

二 安全確保の取組

○安全マップの作成

毎年度始めに、PTA安全委員会が中心となって作成・配布している。全保護者への危険箇所アンケートの実施や自治会長・教職員からの情報を集約し、安全マップに反映している。完成版は、カラー印刷し



三 おわりに

「いつ・どこでも起こる」という危機意識を教職員一人一人がもつことは大切である。安全確保のために、PTAや地域との情報連携や行動連携を密に図りながら、児童の安全・安心に繋がるよう今後も取り組んでいきたい。

- ④ アルファ米の試食体験
- ⑤ 防災訓練
煙体験、水消火訓練、簡易担架体験

本校体育館に泊まっていたの防災キャンプには四年以上の児童が参加した。児童にとって、避難所生活の大変さを体験するよい機会となった。参加した児童がリーダーとなって次年度の防災キャンプの運営ができることを期待している。

○防災キャンプの実施

一〇月に学区子ども会が企画し、学校と連携して実施している。今年度は、消防署の方の協力も得ながら実施した。

次の主な活動を行った。

- ① 段ボールベットの作製
- ② 空き缶かまどで夕飯作り
- ③ 防災についての学習



提 言 二 題

PTA活動を楽しむ

銚田市PTA連絡協議会
会長 園部 敏之



令和元年度、銚田市PTA連絡協議会会長を務めさせていただいております。園部敏之と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。また、日頃より校長先生をはじめ、諸先生方にはPTA活動に対し、御理解と御協力をいただいております、感謝申し上げます。

銚田市PTA連絡協議会は、平成三〇年度には単Pが二〇校ありましたが、今年度は七つの学校が統合し、一四校に減少しました。このような状況ですが、各単P会長の方々と協力し合って活動を行っているところがございます。

銚田市P連では例年、主に二つの事業を行っております。一つは夏休みに実施する銚田市P連指導者研修会、もう一つは銚田市P連球技大会です。特に球

技大会は、ソフトバレー（男女混合チーム）、ソフトボールの二種を実施しており、大変盛り上がる事業となっております。市内のPTA会員が一同に介し、熱い闘いが繰り広げられます。

しかし、それだけでなく会員同士の親睦が深められ、銚田市には欠かせない事業となっております。さて、私が最初にPTA役員として活動に携わったきっかけというのは、先輩からの誘いにどうしても断ることができず受けざるを得なかったということが本当のところだと思います。最初から志を高くもって受けられ方にはお叱りを受けてしまうかもしれませんが、私の場合、自ら進んで携わったということではありませんでした。

しかし、役員としてPTA活動の企画・運営の回を重ねるごとに楽しみになってきました。保護者と学校間の距離が縮まったこと、子供たちの様子を知ることができること、さらに活動を通じて仲間が増えたこと等、得るものが多く、今では役員としてPTA活動に参加することができて本当に良かったと思っております。きっかけを作ってくれた先輩に感謝してお

ます。

現在、仕事や家事で忙しい中PTA役員として活動している保護者の皆様の中には、苦勞されていることもあるのではないかと思います。しかし、私の持論ではありませんが、『活動に対しては〇〇%を求めない。』『失敗しても構わない。』と思っております。活動の際は、保護者全員に協力を求め、役割を分担し、負担を減らすこと。そして何よりも自分たちで活動を楽しむことが大切ではないかと思えます。

全ては子供たちが安心・安全に学校生活が送れるようにするため、保護者と学校、地域が手を携えながら、PTA活動を盛り上げていきたいと思えます。さらに、PTA活動をみんなが集まることのできるコミュニティの一つとして大切に、私自身、今後もPTA活動に積極的に関わっていきたいと思えます。

学校の統合とPTA

龍ヶ崎市PTA連絡協議会
会長 大貫 勝彦



令和元年度、龍ヶ崎市PTA連

絡協議会の会長を務めさせていただいております大貫と申します。

校長先生をはじめ、教職員の皆様には、日頃よりPTA活動に積極的にご参加いただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。

当市P連は小学校十一校、中学校六校、児童生徒数約五七〇〇名の保護者及び教職員で構成しており、主催事業として教育講演会や指導者研修会の開催、その他では女性ネットワーク活動支援、県・県南P連の事業等への参加などの活動を、会員の協力のもと行っております。

さて、当市でも、少子化の進行などにより学校の統合が進められております。

私がPTA活動に参加させていただいた当時、小学校が二三校ありましたが、この五年間で、二校が隣接校に統合され十一校となりました。

このうち一校の統合は、私の娘が在籍していた小学校への統合でしたが、統合前から交流事業を実施するなど、十分な準備の下、慎重に進められ、子供たちはすぐに打ち解けることができたと伺っております。

PTAの統合については、統合する側、される側、それぞれ

に歴史と伝統があり、様々な思いがあったことと思えます。

統合当初は、保護者と話をしますと、「〇〇小の時は」などの発言を聞くこともありましたが、学校行事を重ねるうちに、保護者の感覚も「これが普通」となり、交流も広がり、時間という妙薬を得て、徐々に一体感が醸成されたものと考えています。

もちろん、PTA役員・OB諸氏のご尽力があったことも忘れてはなりません。

当市では、今後、中学校の統合も予定されています。これまでの統合は、隣接校への吸収ともいえる統合でしたが、次は同規模の中学校の統合となります。

当事者となるPTA役員からは、戸惑いの声も聞こえておりますが、両校の良いところ取りでスタートできるチャンスでもあります。

新たなPTAの構築は一朝一夕にはいかないと思えますが、焦らずに一步一步進めてもらいたいと考えております。

このような様々な課題に対応するためにも、教職員の皆様、保護者、さらには地域の皆様との連携の深化が必要となります。

皆様のご協力をお願いいたします。

特別寄稿



「今さらであるが」から「今だからこそ」

龍ヶ崎市教育委員会
教育長 平塚 和宏

いつの時代でも「今どきの若い者は…」という大人独特の言い回しが使われます。しかし、その言い回しは人間が誕生して以来使われ続けてきたとも言われています。時代は変化しても若者に対する見方はあまり変わらないのでしょうか。特に「今どきの若い者」の何を問題視しているのでしょうか。現代では「規範意識の低下」が適当な表現かもしれません。

それでは人間の一生の中で規範というものは、いつ、どのように身についてくるものなのでしょうか。自意識の確立と、ある程度の判断力が備わった時には社会の構成員になっっています。残念ながら規範の伴っていない社会人が話題にもなり、「あんな真面目だった子がなぜ…」といった昨今のニュースがよく報道される現状であります。人が生まれて初めて築く人間関係は母親との関係でありま

す。お互いに目と目を合わせて

の授乳が人間関係の始まりであり、母親との関係で身につく感覚が規範の始まりかもしれません。そして身近な家族の中で規範とする材料が増えて、「一日三回食事をする」「用便はトイレですませる」「夜は眠る」といった日常生活の基礎行動が規範行動の原点になります。

幼保期には家族だけでない他者とのかわりにより「大人や先生の指示に従う」「順番を守る。」「自分の物と他人の物は区別する。」といった具体的な規範行動ができるようになり、同時に、「してはいけない」「すべき」といった衝動のコントロールも学習できるようにになります。

小学校低学年期になると同年代の友達と交流し、約束ごとを守ろうとする態度が育ち、中学年になると役割を分担し合いながら活動するようになります。そして高学年以降では多様な体

験や多種の葛藤を通して、これまで培ってきた規範意識が行動化されるようになります。誕生時の母子関係からの積み重ねは見事な仕組みになっていると考えられます。

若者の規範意識の低下の問題を、家庭での躾、学校での指導といった区別ができないことは明らかであり、それぞれの発達段階でかわる人材が重要な役割を担っていることがわかります。

それでは規範感覚・意識が育つ環境とはどんなものなのでしょうか。一つには、親と子、教師と子供の間の崩れない関係が保たれている環境であります。叱りすぎたけれど崩れない人間関係でしょうか。もう一つは子供の不安や心配に寄り添える安心感のある環境ではないでしょうか。規範感覚はそのような環境の中で育つものであると考えております。

「今さら」という感もありますが、「今だからこそ」規範意識や行動を育成する「人づくり」に取り組まなければならないという思いであります。

研 修 報 告

第七回全連小研究協議会
秋田大会に参加して
水戸・新荘小
矢萩 賢一

第七〇回全日中群馬大会
に参加して
高萩・高萩中
八重樫 一夫

全連小秋田大会が、一〇月一七・一八日の両日、秋田県立武道場を主会場に、茨城県団も五〇名(台風一九号の影響で複数名欠席)近くが参加し、開催された。

一〇月二三日～二五日、第七〇回全日本中学校長会研究協議会が、群馬県前橋市において開催され、茨城県団五六名が参加しました。

台風一九号の影響で全体でも一〇〇名近くが欠席する状況下、副会長である本泉鬼澤会長の「このような時期だからこそ全国から集まり、それぞれの思いを共有し、様々な課題に果敢に挑戦する校長会でありたい」という力強い開会宣言で幕を開けた。「未来社会に向けて幕を開けた。」「未来社会に向けて、変化に対応するためにはなく、変化を生み出すために常に学び続けなければならない。」という喜名会長の言葉は印象的だった。

一日目は理事会・運営委員会等が行われました。二日目は文科省担当者様から、新学習指導要領の円滑な実施や学校における働き方改革の推進など、今後の教育施策についての講話がありました。続いて全日中と代表地区島根県からの提案による全体協議会が行われ、午後は八分科会に分かれ、各提案ごとに活発な研究協議が行われました。

文科省講話で、採用倍率減少に対し「教員からブラックと言わないで」という本音は、教育界の危機感を感じさせた。午後は、五領域一三分科会に分かれ、提言をもとに学校運営上の課題、校長として果たすべき役割と指導性について活発な協議が行われた。二日目のシンポジウムは未来創造がテーマで、内省する時間となった。

最終日には、伊勢崎市立第三中学校マンドリン部・合唱部の生徒による素晴らしい演奏、そして、「自己点検のススメ」の演題で、「クライマーズ・ハイ」や「ロクヨン(64)」などの著者である横山秀夫氏による、切り口の鋭い視点からの講演がありました。大会運営に尽力された群馬県中学校長会をはじめ関係の皆様へ感謝し、参加報告とします。

ブロック研修会から

新しい時代を拓く、
心豊かな日本人の育成

水戸・第四中
皆川 澄雄

今年度の中央ブロック校長研修会は、十一月十二日（火）「新しい時代を拓く、心豊かな日本人の育成」のテーマのもと、教育プラザいばらきを会場に一六〇名を超える会員の参加を得て開催することができました。

本年度より、前年までの分科会での発表・協議・講師指導の内容を改め、講演会並びにグループ協議を行うこととし、研修を通して、校長としての職能を高め、学校経営の充実に資することを目的として開催することになりました。

講演会の講師として元ANNAラーニング株式会社取締役社長の山内純子先生をお招きし、「組織活性化につながる接遇マナー、管理職としての在り方」という演題でご講演をいただきました。山内先生は、所属企業で女性初の管理職を務めた方だそう、言葉の端々に道を切り拓いてきたという自負が感じられ、素晴らしい講演となりました。

創意と活力に満ちた学校づくりのための校長の役割

常陸太田・太田小
西連寺 有

た。「小さいことほど丁寧に、当たり前なことほど真剣に」職場風土が良くなければ、良い仕事はできない」「職場に笑顔がなければ、機内に笑顔は生まれない」等々の言葉ひとつひとつが心に響きました。

講演の後、六人編制でのグループ協議を行いました。講演の内容を踏まえながらそれぞれのグループで活発な協議が行われました。今後の学校経営に生かせるものがあれば幸いです。

結びに、開催にあたりご協力をいただいた中央ブロック校長会評議員・研究推進委員の皆様、当日の係を担当してくださった皆様に改めて心より感謝申し上げます。



創意と活力に満ちた学校経営

潮来・日の出中
河嶋 賢一

トワークを生かした特別支援教育の推進」の副題で行った。第二分科会の提案発表は、常陸太田市立佐竹小学校平根伸二校長が「夢を育む魅力ある教育活動の基盤づくりを通して」の副題で行った。第三分科会の提案発表は、北茨城市立関本小中学校小林宜弘校長が「義務教育九年間を見通した教育活動を通して」の副題で行った。協議の中では、それぞれの学校の実態に応じた創意と活力に満ちた学校づくりのための特色ある取組を紹介しながら、活発な意見交換が行われた。その後、小中学校が抱える様々な課題等についても情報交換が行われ、解決に迫る方策や具体的な校長の役割について共有化を図る貴重な時間にもなった。

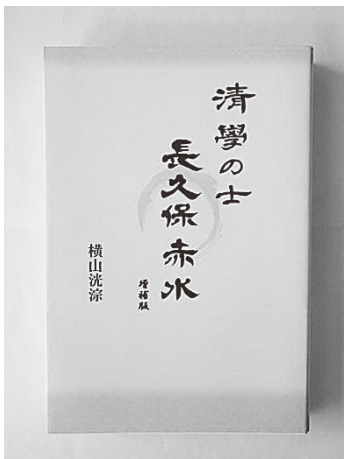
最後に、提案発表された先生方や準備・運営に尽力された皆様に改めて感謝申し上げます。

参加者からは、「今日的な課題についての講演で、大変有意義であった。」「個を生かしながら組織力を高めるという点で大変参考になりました。」等の意見が数多く寄せられた。

分科会では、小学校が二つ、中学校が一つの分科会を設定し、各分科会毎に四から五の分散会に分かれて話し合いを行った。本年度から、学校数の減少により提案発表を廃止し、テーマに沿った話し合いとした。

分散会においては、茨城県校長会の第三期中期教育ビジョンに基づきサブテーマ「働き方改革を実現し、新しい時代の教育を推進するために」を受けて、

茨城県北ブロック学校長研究協議会が、十一月六日に県北生涯学習センターを会場に、「創意と活力に満ちた学校づくりのための校長の役割」をテーマに、講師として、財務リスク研究所株式会社代表取締役横山悟一様、来賓として県北教育事務所長鈴木稔様、助言者として同学校教育課長田崎嘉子様、同人事課管理主事平子剛之様、同根本俊彦様をお願いして開催された。



分科会では、小学校が二つ、中学校が一つの分科会を設定し、各分科会毎に四から五の分散会に分かれて話し合いを行った。本年度から、学校数の減少により提案発表を廃止し、テーマに沿った話し合いとした。



働き方改革に関する各学校の現状と働き方改革を推進していくための方策などについて話し合った。話し合いの後は、三つの分科会から話し合った内容について発表があり、最後に鹿行教育事務所内の三人の講師の先生方に指導助言をいただいた。

参加者からは、「働き方改革について、具体的な情報交換ができ、有意義な時間となった。」「今、学校が改革を求められているテーマであったので、活発な意見が出ていた。」等の意見が数多く寄せられた。

結びに、今回の研修会に当たり、ご講演をいただいた筑波大学の浜田博文教授、ご指導いただいた鹿行教育事務所の先生方に改めて感謝申し上げたい。

新しい時代の教育を推進するための校長の役割
 龍ヶ崎・龍ヶ崎小
 海老原 和夫

県南ブロック研修会は、一月二四日に茨城県県南生涯学習センターにて開催された。管内の小中学校・義務教育学校の会長が六分科会に分かれ「新しい時代の教育を推進するための校長の役割」を研究主題とし、提案発表に基づき協議が行われた。

来賓として県南市町村教育長連絡協議会長・土浦市教育委員会教育長井坂隆様、講師として茨城県教育庁学校教育部義務教育課管理主事高野由紀子様、県南教育事務所長奥谷克二様を始め九名の先生方に全体会・分科会のご指導をいただいた。

分科会では、六名の先生方から地域の特性を生かした教育活動についての発表があった。どの分科会でも活発な意見交換があり、校長の役割の重要性を感じる充実した研修会となった。

第一分科会

「創意を生かした特色ある教育課程の編成と実施」
 牛久・ひたち野うしく小
 青木 進

第二分科会

「基礎・基本の確実な定着と一人一人を生かす学習指導」

つくば・竹園東小 中山 猛
 第三分科会
 「多様な体験活動を生かした心を育てる教育」
 つくばみらい・小絹中

出谷 浩一
 第四分科会

「規範意識を育て豊かな人間性や社会性を育む生徒指導」
 稲敷・阿波小 五十嵐 淳

第五分科会

「家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携の在り方」
 稲敷・かわち学園 橋爪 智

第六分科会

「人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す実践教育」
 取手・取手二中 蛭原 浩一



創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践
 桜川・岩瀬西中
 稲川 善成

県西ブロック校長研究協議会を一月九日（水）県西生涯学習センターで開催した。来賓として県西教育事務所長加藤次男様、市町教育長代表赤荻利夫様、県学校長会会長鬼澤真寿様、同副会長田沼政志様のご臨席を賜り、県西管内各小・中・義務教育学校一五〇名が一堂に会し、「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践（働き方改革を踏まえて）」をテーマに研修を行った。

分科会では、講師として県西教育事務所の五名の先生方に指導助言をいただいた。小学校三分科会、中学校二分科会に分かれ、各校の提案発表に基づいて熱心な研究協議が行われた。参加者にとって、今後の学校経営の指針と示唆にあふれた充実した研修となった。発表者と副主観は次のとおりである。

小学校第一分科会

「教員の人材育成」と「組織力」を柱とした学校経営
 結城・城南小 柴山 勝利
 小学校第二分科会

「ほっとな絆でよりよい生活づくりを目指す子の育成

を通して」

常総・玉小 五十嵐 信治
 小学校第三分科会

「校務の効率化を進め、組織の活性化を図る取組」
 古河・下辺見小 桑名 豊
 中学校第一分科会

「リーダーシップ教育を基盤としたささやかな挑戦」
 境・境第二中 中島 照雄
 中学校第二分科会
 「生徒主体の学校づくりをめざして」
 桜川・桜川中 田嶋 貴子

最後に、ジェントルハートプロジェクト理事の小森美登里様から「いじめ予防と対策のための〈チーム学校〉をつくる」の演題でご講演をいただいた。命の重さや生徒理解の大切さ、チーム学校の体制・機能について深く考えさせられた貴重な時間になった。



ひばり



小舟と筑波夕焼け
神栖・大野原小 横田 次男

関プロ茨城大会を振り返って

ひたちなか・那珂湊第二小
藤田 絹子

手探り状態だった二年前。茨城大会を終えた今、要項の表紙を飾った紅のコキアと澄んだ青空のような、爽やかな達成感を関係者一同感じている。

今年は「one team」が流行語だったが、生活・総合研究部はまさしくオール茨城だった。発表者や会場校を思い、猪野部長の下、県内五地区が団結・協働した。

四〇〇人の参観者からは、大変温かな感想をいただいた。「取組の成果は子供の姿に表れてい

る」というコメントは、会場校にとつて何より嬉しい言葉だっただと思う。熱心に自己の思いを語り、それを周りと共有し、学びを深めている子供らと、その学びをコーディネートし、共に探求する教師。「生活・総合に取り組んで教師が変わり子供も変わった」と嬉しそうに両会場校長は話していらつしやうだ。

今後の教育の在り方について、茨城大学の杉本先生は、「人間のもつ力とはどのようなものが改めて問われているとも言える」と述べているが、茨城大会は、まさに人の良き力の結集した成果を示すものとなった。

おやじの会

常陸大宮・村田小
和賀 徳恵

本校には、保護者や地域の方からなる「おやじの会」があります。「おやじの会」は、主に学校内外の環境整備、稲・サツマイモ栽培や行事への支援により、学校の教育活動を支える大きな力となっています。

そんなおやじの会が中心になって企画運営をする大きな行事が「収穫祭」です。子供たちに、地域ならではの体験をしてほしいという思いから、昔遊び、的当て、丸太切り、工作などの体験活動を取り入れています。

当日のお昼は、持参したおにぎりを親子で食べます。ボランティアのお母さん方からは、前日より準備していた豚汁や児童が栽培したサツマイモの天ぷらが振る舞われます。親子で収穫の喜びを味わい、にぎやかなおしゃべりと笑い声に包まれる一時です。

このように、本校の「おやじの会」は、地域の資源を活用しながら、子供たちを育てたいという思いで活動しています。その思いに込められるよう、地域の担い手となる子供たちの教育に力を尽くしたいです。

ゆつくり一歩ずつ

日立・油縄子小
古内 勝紀

最近、趣味として山登りを始め、魅力を感じている。時間と余裕（気力）がある時に出かける。登山といっても本格的なものではなく日帰り登山である。その目的は体力づくり。山登りには人生に必要な要素がふんだんに詰まっている。登っている時は、ゴールが見えないけれど、ひたすら黙々と登っていく。頂上に着いたときの達成感そして爽快感。そこから見える景色は最高である。人間関係、指導等なかなかうまくいかないことが多い中、登ってやろうという目標があることが大事である。

子供たちは、将来の夢に向かって日々がんばっている。本校では、児童一人一人の「いいところ」を伸ばす教育を推進している。児童の実態を把握し、その「いいところ」を見つけ、褒め認め励まし、自信をもって成長できるような声かけしている。夢に向かつて、一歩ずつ確実に歩み、多くの子供たちが山頂で達成感を感じ、素晴らしい景色を見ることのできるよう、一人一人の自己有用感を高める教育の推進に努めていきたい。

思い出の合唱コンクール

神栖・神栖第三中
木之内 英一

教員生活三〇数年。毎年秋になると思い出すのが学級担任として臨んだ合唱コンクール。

中学校に異動した最初の年、一年の担任として迎えた合唱コンクール。生徒との信頼関係が思うように築けず、歌声も態度も今ひとつ。自分の学級経営を表しているようで、大惨敗。

次の年は三年の担任。生徒との関係も良好？で、教室へ行くのが楽しみな学級。今年こそはと期待。しかし、結果は出ず。

三年目、再び三年の担任。学力は低い、運動は苦手。特に男子は暗いと評判の学級。練習時煮え切らない男子（含担任）に女子の不満と怒りが爆発。ようやく男子に火が付き、最後は完全燃焼。結果は全校優勝。表彰式で当時の校長から「三年五組は学校行事で初めての表彰ですね。よく頑張りました。」の言葉に生徒も担任も号泣。

秋、合唱の季節。今年も各学級で幾多のドラマが繰り広げられ、一人一人の生徒や担任にとつて、思い出の合唱コンクールになったようです。

教諭そして校長として

稲敷郡・安中小
池田 博昭

新採から十二年間の中学校勤務の後、初めて赴任した小学校が安中小学校でした。中三を二年間担任した直後の小四担任はとも大変だったことが思い出されます。初めて教える国語や社会等の授業は、四苦八苦の連続でした。しかし、校長先生をはじめ多くの同僚の先生方の温かい助言等により、次第に小学校教育の楽しさややりがいを感じるようになりました。

今では、県の教育論文やソニー賞への応募、県指定の理科の発表会、更には内地留学等多くの活動を安中小学校において経験させていただいたことが、現在の自分自身の糧になっていると実感しています。また、子供たちとともに集会活動の企画・実践に取り組んだことや、安中地区の豊かな自然を生かした総合的な学習などは、今でも脳裏に焼き付いています。

自分を成長させてくれた安中小学校に再び勤務できることは、大きな縁を感じています。今度は校長として、子供たちや地域のために、恩返しのお返しも含め、精一杯努めていきます。

楽しい学校生活を目指して

北相馬・文小
伊藤 純一

今年度本校は、学級経営の充実を重点に掲げ、教育活動を進めています。子供たちの家庭環境が多様化する中、学力の向上や学校生活の充実には、学級での良好な人間関係が必要であると考えます。そのために本校では、養護教諭が中心になり、全校でピア・サポート活動に取り組んでいます。ピア・サポート活動は、人が人を支援する（助ける・力になる・勇気づける）活動です。ピア・サポート活動には思いやりのある学校・学級の雰囲気があることやみんなが仲良くなる、いじめが起きにくくなるなどの効果があります。本校ではピア・サポート活動の年間計画を作成し、推進しています。具体的には、「もめごとの対処法」「アンガーマネジメント」「学校グループワークトレーニング」などを行い、人間関係づくりに役立てています。

これからも一人一人の子供たちの心に寄り添い、充実した楽しい学校生活を送れるように全職員で支援したいと思えます。

自然災害に対して思う

結城・山川小
池田 浩一

令和元年10月。台風一九号がもたらした豪雨によって本校も避難所が開設され、約100名の地域の方が体育館に避難した。

私にとっては、筑西市で経験した東日本大震災、常総市で経験した関東・東北豪雨に続いて三度目の避難所設置であった。その度に耳にするのが「経験したことのない」「百年に一度」などの言葉である。ここ数年は、日本のどこかで、毎年のように大きな災害が起こっている。百年に一度どころではない。

大規模災害が発生した場合、避難所の運営は基本的に市町村の防災担当が責任を負うが、学校も可能な限り避難所運営に協力する。私が常総市に勤務していた時は、体育館近くの通路に電灯を増やしたり、炊き出しの協力をしたり、また他県から学校にかかってきた電話の対応（学校に避難しているかどうかの確認）なども行ってきた。いつ、どこで起きてもお不思議ではない自然災害。子供たちには、どこにどのように避難したらよいか、自分で考え行動できる力を身に付けてほしい。

校歌に学ぶ地域の歴史

下妻・大宝小
國府田 薫

我が大宝小学校は、歴史ある大宝八幡宮の史跡内に有り、子供たちは、大きな鳥居をくぐって登下校しています。そして、本校の校歌は、郷土の詩人、横瀬夜雨の作詞によるものです。

歌詞の一番は大宝小が所在する場所について、二番は学校のある大宝地区の様子について、三番は大宝という地名について歌われており、短い歌詞の中に、実に多くの歴史が語られています。例えば、一番には、南北朝

時代にこの地で活躍した下妻政泰公という武将の名が、二番には、今広々と整った田んぼが、かつて「鳥羽の湖」であったこと、そして三番では、大宝という地名が県内で唯一無二であることなどが登場します。

機会ある毎に歌っている校歌ですが、歌詞にこめられたこのような歴史も、しっかり意味を伝えないと単なる歌詞で終わってしまいます。このような歴史がある地域に建つ学校として、また、その歴史を記した校歌がある学校として、地域と共にある学校を目指していきたいと考えています。

読んでみませんか

『きみの友だち』

著者 重松 清
出版社 新潮文庫

最近、少しだけ時間が取れるようになり、趣味である読書の時間を意識して取るようにしている。好きな作家の作品を読み返すことも多い。重松清さんもそんな中の一人である。

彼の作品には、是非、読んでほしいと思うものがたくさんある。その中の一番が、ここで紹介する「きみの友だち」だ。

この作品は、足が不自由な少女と身体の弱い同級生の二人を

軸に、その周辺の人々の出来事と心情が丁寧に描かれている。自分自身を誰かに投影しながら読み進めることができるのも特長だ。思春期の悩みや葛藤、焦燥感など、誰もが感じたことのある感情が静かに迫ってくる。「きみの友だち」の「きみ」とは読み手である自分に向けていた言葉だ。友だち、家族、人生について考えられる秀作である。中学生はもちろん、人生の折々に読んでほしい一冊だ。

猿島・五霞中
森田 恵美子

梅のかおり

—先輩校長から—



笑顔とともに…



前・小美玉市立
玉里中学校長
羽鳥 文雄

私の趣味は、高校野球観戦。

退職後、春夏秋冬と何度も球場に足を運び、球児から多くの感動をもらっている。昨夏の甲子園には、感動とともに底抜けに明るい笑顔があった。準優勝した星稜高のエース奥川恭伸投手の笑顔である。絶体絶命のピンチでも焦りや不安を感じさせない笑顔、勝敗を超えて試合を楽しもうとする笑顔に、私は魅了された。屈強でしなやかな彼の心身の源は、この笑顔なのではないだろうか。星稜高野球部員の合い言葉は、代々「必勝」をもじった「必笑」なのだそう。また、笑顔には脳をリラックスさせ免疫力を高める、良好な人間関係を築ける、ポジティブ

思考になるなどの効果もあるといわれている。確かに、私の教職経験上、素晴らしい教師は笑顔が素敵な人が多かったと記憶している。

現在、私は地元の幼稚園にお世話になり、園児たちのおびつきの笑顔や職員の優しさあふれる笑顔に囲まれ、充実した日々を過ごしている。人生の後半戦、中国の諺にもあるとおり、「一笑一若」いつまでも若々しく、有意義な人生を送りたいと思っている。笑顔とともに…

教員人生を終えて感じたこと



前・立町立
茨城小学校長
岡小 林 豊

三八年間の教員人生を年代とともに振り返ってみると、その時々にも多くのことを学ばせていただいたと感じています。

中学校での担任時代。クラスマッチを中心とした学校行事に子供以上に夢中になって共に味わった感動。生徒指導で先輩の先生方から指導を受けながら、共に子供たちに真剣に向き合っ

携わる責任ある校務分掌を任せられ、時間を惜しんで仕事に取り組んだ中堅時代。そして、教頭及び校長の管理職時代。日々起こる事件や事故の対応、児童生徒の安全管理や保護者対応、危機管理など多様な課題の対応に奔走した日々。

その時々辛いことや苦しいこともありましたが、今となれば、どれもとても懐かしい思い出で、大変貴重な体験でした。この体験が糧となり、今の自分があるのだと感じています。

この三八年間の教員人生を終え、昨年度末に定年退職を迎えることができたのは、その時々の子供たちや先生方、保護者、地域の方々の支えがあったからだと感謝しています。

日々新又日新



前・北茨城市立
精華小学校長
関 辰洋

これからの人生百年時代を生きるために、「老いは足から」と言われるので、脚力のある程度鍛えておかなければと考え、北茨城市で実施している「健康ポイント」に申し込んだ。「六〇歳以上は八千歩以上歩くことが

目安」となっている。在職中は、ランニングタイム等、身体を動かす機会があり、毎日一万歩以上歩くことができたが、現在の仕事では、約四千歩歩くのが一杯である。そこで、目標を達成するため、歩く時間を確保することに日々努めている。

他にも「旅行（鉄道を用いての旅）」「写真」「旧友との再会」「スキー」「読書」「花・野菜の栽培」「庭・庭木の手入れ」「不要物の整理」など、少し考えただけでもやってみたいことが出てくる。これらにどのように取り組むか、今後の人生を見つめてマネジメントしていかなくてはと考えている。

学年末で、校長先生方は今年度の振り返りと新年度の準備に忙しい毎日をお送りのことかと思えます。「日々新又日新」（ひびあらたにして、またひにあらたなり）のように毎日新たな気持ちで、充実した学校経営に取り組んでいってほしいと思う。

ICT指導員として再スタート



前・銚田市立
白鳥西小学校長
五十野 亀久雄

退職後、銚田市教育委員会で、

ICT指導員として働いています。市内の小学校にプログラミング教育の実践をお願いして、その支援にあたっています。教育委員会の職員として先生方と打合せを行い、学習指導のお手伝いをして、子供たちから「学習が楽しい」という声が聞けることを楽しみにしています。

休み時間に子供たちが運動場で遊んでいるのを見るのも久しぶり、現役時代は安全管理の目で見ていましたが、今は、子供たちが楽しく遊んでいるのを違った思いで見えています。

先生方は、プログラミング教育に對して不安をもっています。実践していただくにあたり、資料を作成し、少しでも安心して授業が進められるよう支援しています。先生方も子供たちが「楽しい」と言ってくれると手応えを感じ、自信をもって指導していただけるものと考えます。

銚田市では、今年度中に中小学校の普通教室に大型提示装置が設置されます。今後、ICTを活用した学習環境や働く環境が変化していくものと考えます。先生方の負担を最小限にし、楽しく学べる環境の整備に努めていきたいと考えております。

銚田市では、今年度中に中小学校の普通教室に大型提示装置が設置されます。今後、ICTを活用した学習環境や働く環境が変化していくものと考えます。先生方の負担を最小限にし、楽しく学べる環境の整備に努めていきたいと考えております。

退職後の生活で



前・土浦市立
真鍋小学校長
江原 保子

定年後は思いもかけず、四人の障害者（精神）の方々の支援員として働くことになりました。「障害者雇用促進法」等の推進の動きを受けて私のような立場が求められるようになったようです。

当初教員生活で得た特別支援教育の知識や経験があるから大丈夫だと思っていました。ところが、四月からの半年間は挫折の日々でした。教師風を吹かせてしまったり、自分の物差しでしか相手を理解できなかつたりしました。相手に自分の考えは伝わったはずだという確信は見事に砕け散ってばかりの日々でした。

半年が過ぎたころから、自分なりに四人の方々の特性が分かってきました。それぞれの行動を見て、その方の状態をある程度推察できるようにになりました。そうになると、その方にどう対応することが一番良い方法なのかを考えることができるようになってきたのです。

「児童理解（生徒理解）が大

切だ」と職員会議で先生方によく言っていました。この基本理念は、私の現在の職にも重要であり、必要なものであると痛感している今日この頃です。

卒業写真



前・石岡市立
林小学校長
青木 光一

松任谷由実の曲に「卒業写真」という曲があります。コンサ

トではほぼ毎回最後に歌われる名曲です。先日、この曲の題材となったと言われ、この曲を録音したレコード会社もあつた田町駅周辺を散策し、ひとときの感慨に浸りました。三八年の教員生活から卒業した離任式では、思わず涙がこぼれました。

四月から教育研修センターでお世話になっていきます。若手教員からベテラン教員、そして管理職まで研修される先生方と共に勉強させていただいています。校内研修支援訪問では実際の授業について先生方と一緒に考えます。三八年やってきてもつくづく勉強不足であることを実感すると同時に学ぶ楽しさも感じていきます。

陸上競技の公認審判員も長く

務めています。マスターズ大会という年齢別の大会があります。七〇代、八〇代の方も元気に走っておられます。自分もまだまだ頑張らなければと思いません。「あの頃の生き方をあなたは忘れないで：」これからも授業作りに奔走した頃を忘れずに学ぶ楽しさと教える喜びを感じながら生活していきたいと思っています。

前向きに生きる



前・八千代町立
中結城小学校長
谷中 勝

三八年間の教職生活を終え定年退職。退職後は、気ままな年金暮らしが待っていると思っていたが、現実はそんなに甘くはなかつた。

再任用で教育事務所の生徒指導相談員・主査として三年間勤務し、今年からは、県民センターの青少年指導員として働いている。

定年退職一年目に、通勤途中で急性心筋梗塞になり、救急車で緊急搬送されステント治療を受けた。現職の時には体力にも自信があり、健康面では心配したことがなかったが、その時、

人生で初めて自分の命の危機を感じた。現役を引退して気が緩んだのだろうか。

危機を乗り越えて思ったことは、現役を引退したからといってそこがゴールではなく、定年は通過点で、第二の人生のスタートなんだということである。

そう気持ちを切り替えると、新たな職場は今までは違った仕事や人との出会いがあり、毎日がとても新鮮に感じられる。

定年延長や年金支給年齢の引き上げなど、いろいろ囁かれているが、何事も前向きにとらえ、人生を積極的に生きていくことが大切なのではないだろうか。

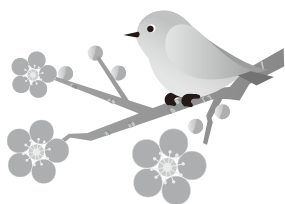
「つながる」ということ



前・常総市立
網西小学校長
猪瀬 和男

退職して早八か月がたちました。新たな場所での勤務は新鮮な気持ちにさせてもらえます。学校での子供たちとのふれあいはありませんが、近くの学校の校庭から生徒たちの活動する声が聞こえたりすると懐かしい気持ちになります。先日、学校の方から大きなかけ声が聞こ

えてきました。職場の窓から校庭を見ると、先生と生徒たちが大縄の練習をしていました。その声や様子から熱気が伝わってきました。集団で活動する姿は学校ならではの光景だと思いました。そして先生と生徒のつながりを感じる光景だと思いました。現役時代を振り返ると「人と人がつながる」「記憶がつながる」「知識や考えがつながる」そんな場面が沢山ありました。自分はずながりを見つけた。つながりを付けたり、またつながりに助けられたりしながら日々を送ってきたような気がします。特に人と人の「つながり」「絆」を感じたとき、安心感や温かさを感じ笑顔になったり、納得し突き進んだりすることができたと思います。これからも、この「つながり」を感じながら、そして大切にしながら日々を送っていききたいと思



市町村教育委員会と学校長会

常総市

ほつとな絆の 常総教育

常総・水海道小
服部 仁一

協力により茨大・筑波大・下館
河川事務所・防災危機管理課・
消防団・自主防災組織・自治区
民等と連携した【市内小中学校
一斉防災学習】並びに引き渡し
訓練を実施しています。

二 指導力向上

各校が授業力向上を目的に
市指導主事の指導のもと三年
目に発表会という計画で【独自
研究】を進めています。また、
【JOSO 若手教員アカデミー】
では、普段の教員研修とは違っ
た視点で、視野を広げるような
研修を市教委と連携し進めてい
ます。

三 外国人支援

外国人が多く居住する本市は、
日本語が理解できない児童・生
徒や保護者のために、通訳や翻
訳をする【外国人支援員】や日
本の学校生活等をサポートする
【NPO JUNTOS】との連携
が欠かせません。その窓口として
の役割も市教委が担ってくれて
います。

一 防災教育

常総市は平成二七年九月に鬼
怒川決壊により大きな被害を受
けました。その教訓を無駄にし
ないよう、校長会では、防災特
別委員会を設置し、市教委との

その他、市教委との協力に
よって、中一ギャップ解消のた
めの【中一オリエンテーション
キャンプ】を進めたり、【児童
生徒作品展】【中学生議会】【少
年の主張】【子どもフォーラム】
を行うなど、「地域で育てる」
を意識した児童・生徒の活躍の
場が設定されています。これか

笠間市

市教育委員会との 連携について

笠間・稲田中
海老原 誠

笠間市校長会は、小学校一〇
校、中学校五校、義務教育学校
一校の計一六校で構成されている。

教育委員会と校長会は、「(か)
革新、(さ)最善、(ま)真心」を
合い言葉に、次に示すような連
携を図り教育を推進している。

一 定例校長研修会の開催

毎月一回の定例会では、市教
育長や指導室長から、国・県の
動向を踏まえた市の教育施策や
事業、教育的な課題、人事にお
ける方針等について、説明及び
指導・助言をいただいている。
それをもとに、教育課題解決の
ための研修や協議、各校の取組
について情報交換を行い、共通
理解を図ることによって、各校
が安心して学校経営に取り組む
ことができている。また、様々
な課題に対して、教育委員会と
校長会の協議のもと、方針や対
応策を決定している。

二 連携による対応策の具体例

○夏の猛暑への対応

児童生徒の安全対策について
協議し、学校現場に合ったマニ
アル等を作成し活用してきた。
○働き方改革

早々に連携協議を行い、学校
閉庁日の設定・留守番電話の設
置・部活動の早朝練習の原則禁
止等について先駆的に取り組ん
できた。

○地域とともにある学校づくり

本市では『笠間スタイル小中
一貫型コミュニティ・スクール』
の設置を推進している。各中学
校区において、順次、学校運営
協議会の設置を進めている。

三 学校支援について

市教育委員会による学校支援
は、校長会の意向が尊重されて
いる。校務支援システムは、導
入から一〇年以上が経過し、今
や学校現場にはなくてはならな
いものとなっている。また、今
年度エアコンが全小中学校に設
置されたことも大きな成果であ
る。

人的な支援においては、全小
中学校に常時一名以上のAET
の配置をはじめ、SSW、特別
支援教育支援員、就学前教育ア
ドバイザー、心の教育相談員、
ICT支援員等、目的や学校の
状況に応じた幅広い分野での配
置があり、それらは学校の力強
い応援団となっている。

今後とも市教育委員会と校長会
との連携をさらに深め、変化の
著しい社会において、児童生徒
が自らの人生を拓き、生涯を生
き抜く力を培うことのできる教
育を推進していきたい。

ご逝去を悼む



令和二年一
月二五日、水
戸市立内原中
学校長、朝倉
美広先生が逝
去されました。

朝倉先生は、中学校体育
連盟の中心となり、本県体育
教育の推進に多大な貢献を
されました。
ここに哀悼の意を表すと
ともに、謹んで朝倉先生のご冥
福をお祈りいたします。

お詫び

前号にて、那珂市立菅谷東小
学校の前校長小室信之様の勤
務校名に誤りがございました。
ホームページには訂正して掲載
いたしました。心よりお詫び申
上げます。

編集後記

皆様のお陰をもちまして令和
元年度の広報誌を無事に発行す
ることができました。今号は次
年度への備えや危機管理体制を
特集として掲載いたしました。
ご多用の中、玉稿をお寄せい
ただいた皆様に厚く御礼申し上
げます。